

町田市立小中一貫ゆくのき学園の廃校見直しを求める請願

【請願要旨】

町田市立小中一貫ゆくのき学園は、大戸小学校・武蔵岡中学校を母体とした町田市唯一の小中一貫校として2012年に開校しました。本校は、施設一体型小中一貫校ならではの特長を生かし、児童・生徒一人一人にきめ細やかな9年間の継続的な指導を行う小規模特認校として、学校・保護者・地域が力を合わせて築き上げてきました。しかし、町田市教育委員会は今年の5月、本校の廃校計画を盛り込んだ『町田市新たな学校づくり推進計画』を策定しました。これは、開校と同時に入学した1年生が、9年生として卒業してわずか2か月後の出来事です。本校は親子2代で在籍・卒業している方も少なくありませんが、私達が抱えているのは、子や自分の母校を失うという悲壮感ではありません。市唯一の小中一貫校・小規模特認校として様々な子どもたちを育て、市が掲げる「小中一貫町田っ子カリキュラム」をけん引するとともに、町田市西端の地域である大戸地区の核として機能してきた本校を、開校からわずか9年後に廃校方針へと転換した市への失望感です。

小中学生が同じ校舎でともに学ぶ本校は、小中教員が連携して丁寧に9年間の指導を行います。学校行事は教員や小中学生が協力し合って運営し、部活は5年間じっくりと取り組み、その過程で子どもたちは異学年間や小中学生同士も仲良くなり、互いに思いやる心を育んでいます。また、芝生校庭、ヤギを飼育するふれあい広場、学校林やホタル生息地を擁する本校は、学習環境にも恵まれています。これらの特長に惹かれ、本校に通うために学区変更をした方、家を買うなどして転居してきた方などは少なくありません。私達は、このような学校を必要とする子どもたちのために、本校の存続を願っています。

相原町は東西の距離が約7kmと長く、全域からの通学は時間がかかること、大災害などの緊急時の帰宅が容易ではないこと、町田街道の慢性的な渋滞等の道路状況から、この町全体の児童・生徒を小中学校各1校に集めることや、バス利用前提の通学をさせることは現実的ではありません。本校が廃校すると、多くの子育て世帯は遠距離通学の解消を求めて大戸地区を離れることが予想されます。その結果、大戸地区は高齢化と過疎化が進み、限界集落に近づいていくのではないのでしょうか。

市の主導のもと「地域協働の学校づくり」を実践してきた本校は、地域に根付いた学校です。特に地域の高齢者の方々にとって本校は子ども達とのふれあいの場であり、生きがいや自己実現の場にもなっております。さらに、大戸地区で传承されてきた町田市無形文化財である郷土芸能「大戸囃子」は、主に本校の在校生や卒業生が毎年稽古に励むことに

より引き継がれてきました。本校が廃校すると、地域の方々が活躍する場が奪われ、伝統文化の継承者が失われていきます。このように、大戸地区のまちづくりにおいて、本校は無くてはならないものなのです。

ゆくのき学園の存続が危ぶまれていることを知り、私たちは市に対し、団体ごとに要望を重ねてきました。ゆくのき学園保護者有志は地域の方々の協力も得て署名運動に取り組み、町田市長への要望書を提出し、3469筆の署名とともに教育委員会に請願書を提出しました。都営武蔵岡自治会は、要望書を教育委員会に提出しました。元教員が多い少人数学級を実現する会は、町田市長に5通の要望書と教育委員会に請願書を提出しました。また、全会派の市議会議員にも協力をお願いしてきました。これらの活動が効を奏したのか、第2回教育委員会定例会において、教育長が「今年入学したゆくのき学園1年生が、ゆくのき学園を卒業するまでは、統合作業に着手しない」と明言しました。しかし私たちは、現在ゆくのき学園で学ぶ子ども達のことだけを考えているのではありません。本校は大戸地区の宝であり、地域住民のよりどころです。

市内唯一の小中一貫校、ゆくのき学園が廃校にならないように、ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

【請願項目】

1. 町田市立小中一貫ゆくのき学園（大戸小学校・武蔵岡中学校）を廃校にしないでください。